

ヨハネの福音書 第1章 29節

「その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』」

晴天に流れる豪快な雲の塊が見える。先日の土砂降りから一変した爽やかな青空と白い雲の出現である。この空を見上げる者の心をどこまでも開放してくれる。心の芯まで届く青い空間だ。青空と陽光で白く輝く雲に包まれている錯覚におちいる程ダイナミックな空だ。見上げる者の居場所を忘れさせる程に魅了する空だ。

ここに青空を忘れさせるほどの出会いを体験する者がいる。バプテスマのヨハネである。当人が立つ場所、仰ぐ空、周りの風景を語るのではなく、見よ、と促す。見えるのは、世の罪を取り除く神の小羊である。空よりも、山よりも、海よりも、なによりも目を向けるべきお方がいる。それは、世の罪を取り除くために遣わされた神の小羊である。見る者の罪をきよめるために遣わされた子羊である。

子羊なるイエスが見ているバプテスマのヨハネのほうに来る。来てくださるのである。来てくださるから見えるのである。罪の世に、イエスを見る罪人のほうに来てくださる。神の小羊、世の罪の犠牲として。見よ！